

日本発 国際標準の現状と展望

デジタル社会を推進する国連CEFACT標準

体験プログラムの標準化とサステナブルツーリズムの推進

—国際標準の普及・実用化に傾注—

2021年10月27日

NPO法人 観光情報流通機構 (JTREC)

「体験プログラム」標準化（ビジネススタンダード）の経緯

「体験プログラム」の萌芽

Experience Programs



宿泊

(イメージ)



観光

オプションツアー

滞在地の隙間時間

ちょっと遊ぶ

ちょっと何かする



地域

隙間時間の楽しみだけでなく
滞在の主目的となるような
体験プログラムを開発したい

「体験プログラム」標準化（ビジネススタンダード）の経緯

スマートフォンやSNSの普及により滞在地で「体験プログラム」の予約が容易に



- ・ 利用者は、多様な体験プログラムの仕様や安全性、信頼性そして他商品との比較がしたい
- ・ 旅行観光事業者は、体験プログラムをツアーや宿泊プランにスムーズに組み入れたい
- ・ 予約は、ツアーの申込時でも滞在地で思いついた時点でも受け付けたい
- ・ 全国に点在する体験プログラムの連携について方策が必要なのは？
 - ➡このようなことから予約時の内容確認や取引の標準化の必要性が高まった

さらなる特徴として、

- ・ 体験プログラムは滞在地で隙間の時間を埋める旅行商品という側面だけでなく、地域の専門性の高いサービスが増え、旅行観光事業者に送客を依存しなくても独自に訴求できる商品が立ち上がってきた。
- ・ その中でも地域の自然環境を活かしたウェルネス体験プログラムなどは地域活性化の代表的な存在になってきた。

体験プログラムに対する新しい視点

Experience Programs (EPs)

体験プログラム EPs	過去	現在	体験プログラムに対する 新しい視点
従来型ツアー 	観光ツアー オプションツアー エコツーリズムまたは グリーンツーリズムに基づくツアー		ツアーの滞在先で隙間を埋める旅行商品とは異なり、地域独自あるいは体験プログラム専門事業者による独立型体験プログラムが登場してきた 
新しいトレンドのツアー (多様な体験プログラムが各地に登場)		農業ツアー 産業ツアー 健康関連ツアー スポーツツアー ソーシャルツアー あらゆる種類の アクティビティツアー	地域を活性化する 自然環境を維持する 利用者の生活の質(QOL)を改善する

EPsの事業推進はサステナブルな社会につながる

2019年度、国連CEFACT 観光部会で活動スタート

「Green Paper」を作成、国連CEFACTと協議

- ①体験プログラム（EPs）の標準化の必要性和技術要件をまとめる
- ②体験プログラム（EPs）はサステナブルツーリズムの実現をめざし推進する

➡ EPs標準化プロジェクトとサステナブルプロジェクトの2本を走らせることになった

観光分野における主導的な国際機関としてUNWTO（国連世界観光機関）があり、環境問題に注力しているが国連CEFACTの要請で観光部会の新たなアイデアで推進する。

体験プログラム（EPs）標準化の効果として、

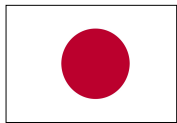
- ・よりサステナブルな旅行観光事業者になる
- ・よりサステナブルな観光地域になる
- ・よりサステナブルな旅行者・利用者になることをめざしたい。

旅行・観光分野および地域活性化に貢献するために

体験プログラムに関するビジネススタンダード（国際標準）の開発に着手した

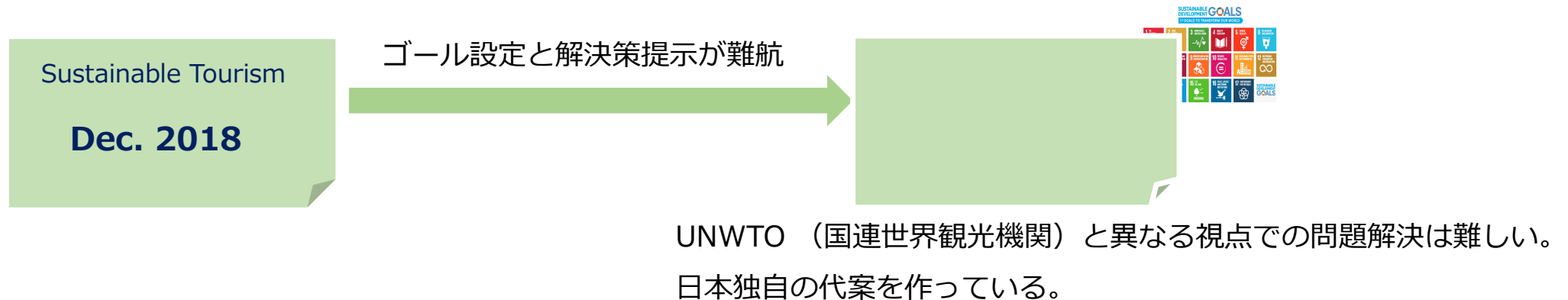
提案は、当 NPO法人観光情報流通機構によるもので

日本、台湾、韓国、インド、バングラディシュによる国際協調活動としてスタート

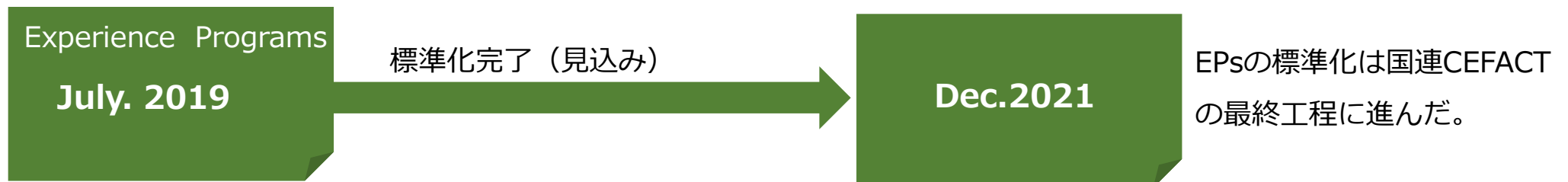


途中経過（2021年9/末）

■ 「Green Paper on Sustainable Tourism Experience Programs」



■ Project Proposal 「Experience Programs Technical Artefacts」



「EPsの国際標準を活かした実用化」に取り組む

<標準化 国連CEFACTの世界>

EPsの標準化が完了

EPsに関し、地域創生、持続可能性、QOLの質の向上に力点を置いたBusiness Standards開発

① ビジネスプロセスの開発

具体的な取引を分析

② 取引に関連する用語の開発 (Deliverables)

Semantics (取引に使用する用語類)

CC (基本用語)

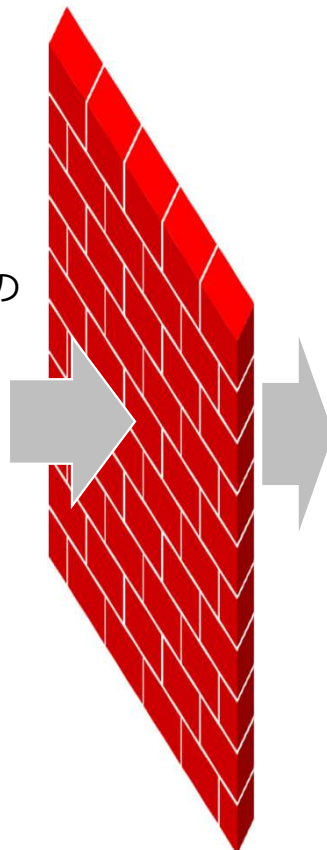
BIE (取引用語)

Data Codes

③ 関連Documentsの作成

BRS (Business Requirements Specification 要求仕様書)

RSM (Requirements Specification Mapping 要求仕様マッピング)



<標準の普及・実用化 産業界・一般社会>

当機構 (JTREC) として
“EPs標準” の実用化をめざす

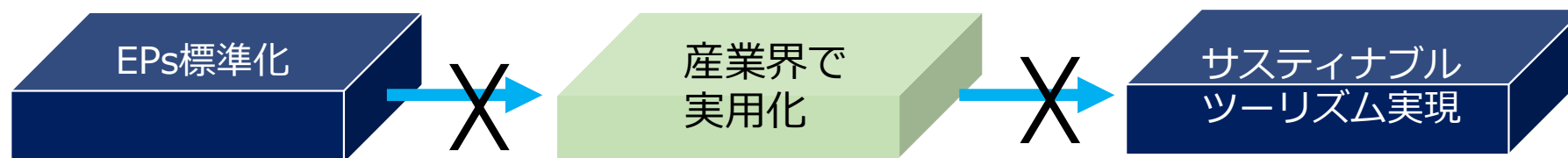
- ・ゴールは標準されたEPsを実用化する
- ・実用化はウェルネス分野で行う
- ・推進策はウェルネスツールリズムとして進める
- ・2021年9月から活動開始する



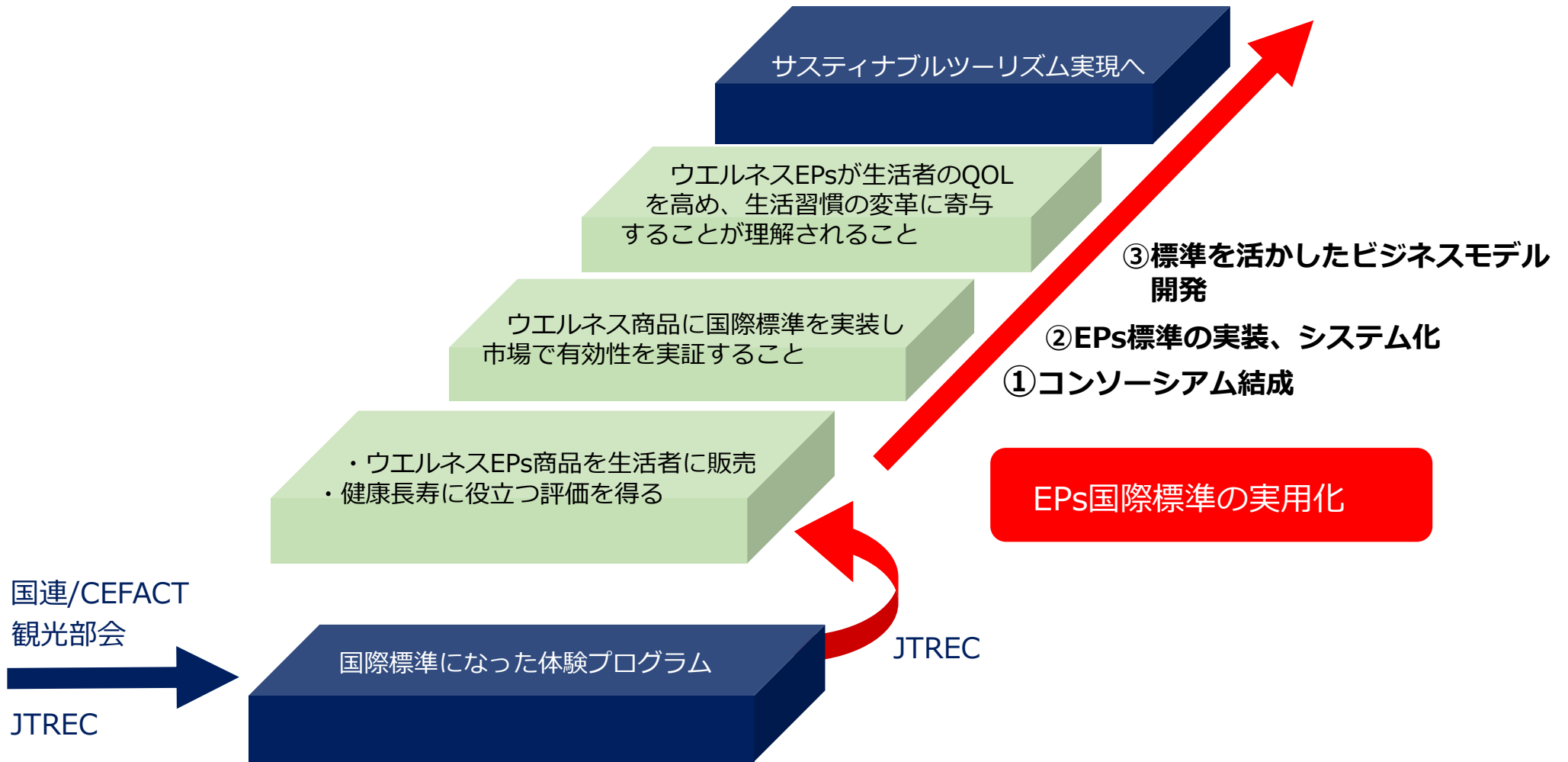
ウェルネスEpsを普及させることで
サステイナブルな社会実現に貢献

「Green Paper」に沿った推進に独自戦略を加える

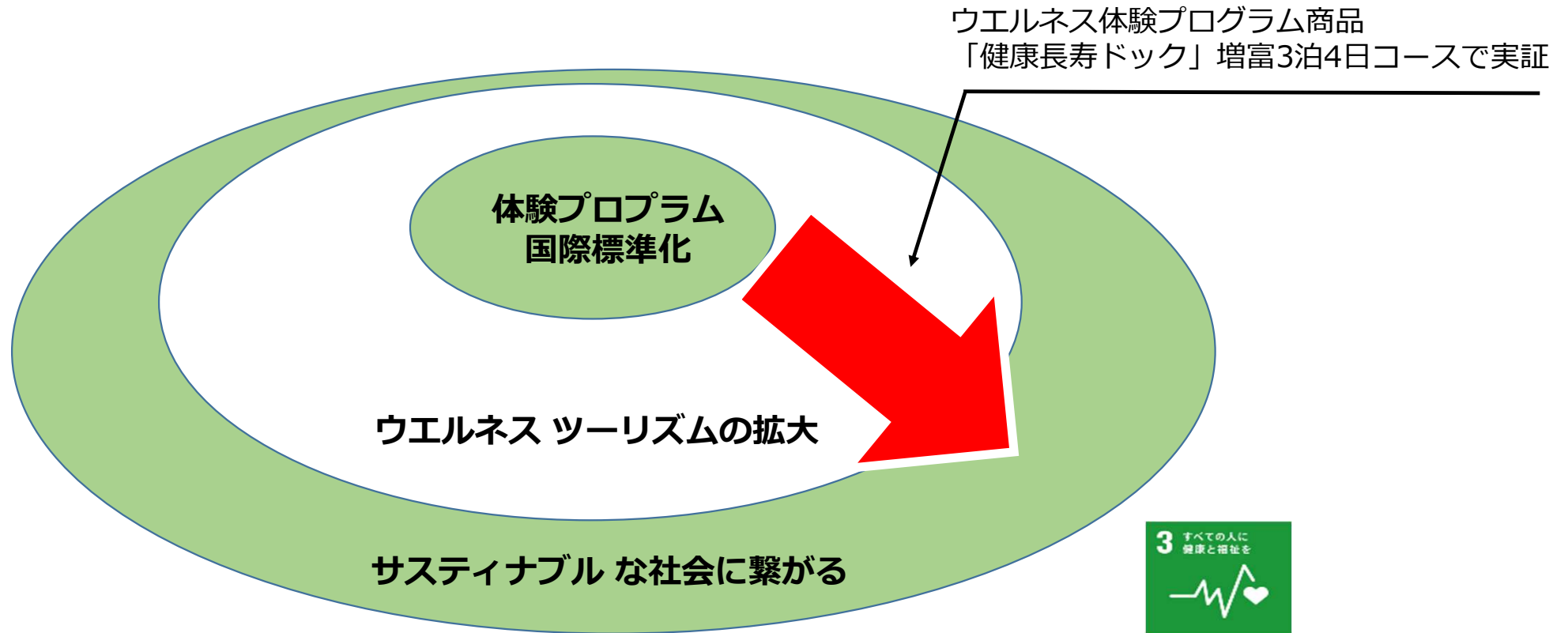
標準化しただけでは普及・実用化は容易には実現しない



実用化に傾注



「Green Paper」に沿って2プロジェクトを推進する



来年は日本でEPs国際標準の実用化を加速させたい

方法はウエルネスEPs商品に実装して市場で試行したい

そのためには完成度の高いウエルネスEPs商品が必要になる

**「健康長寿ドック」というウエルネス体験プログラム商品を
ひな型に実用化を進める**

36th 国連/CEFACT Forumでウェルネス体験プログラムを説明（本年4月）

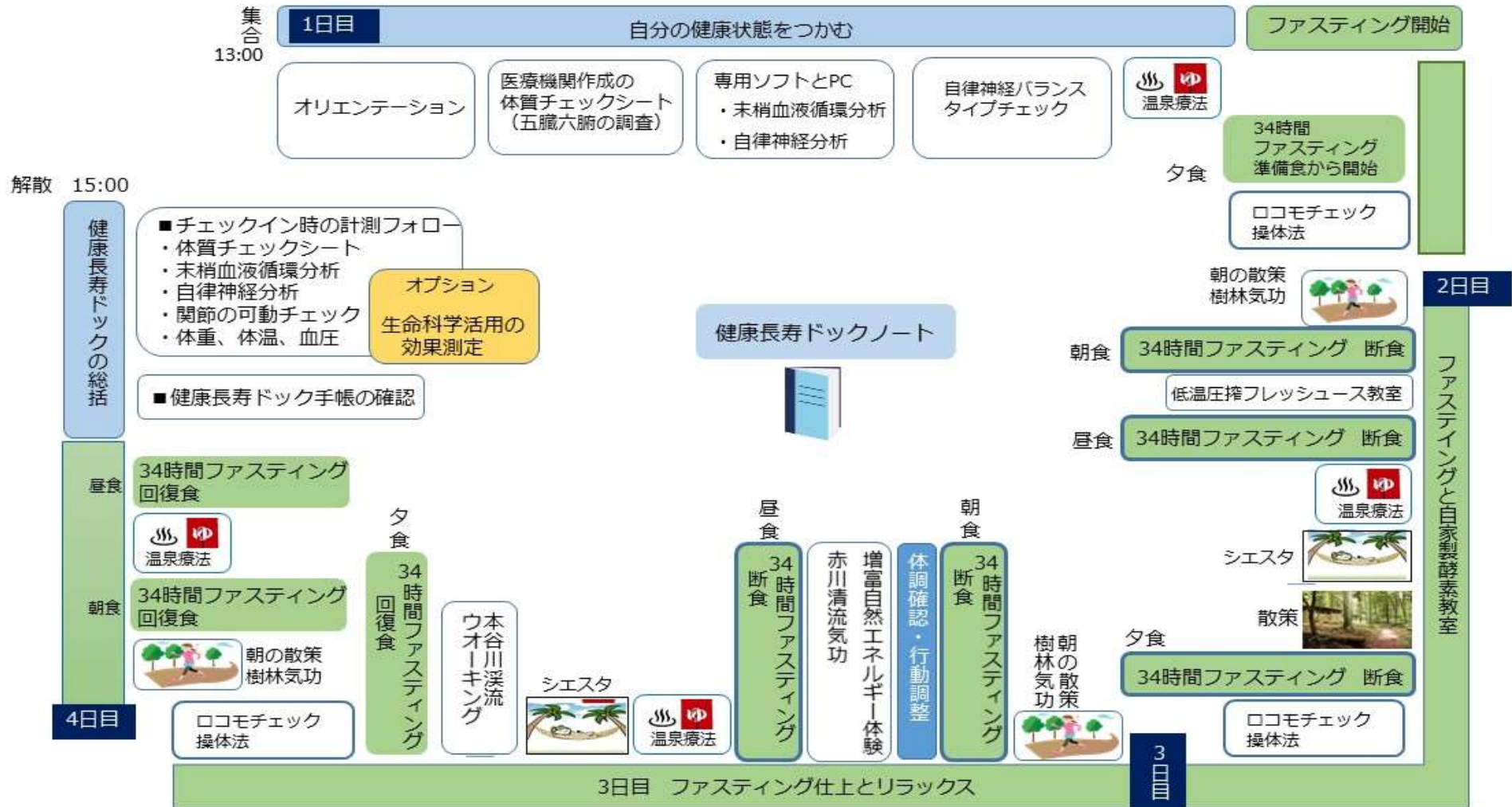
（例）健康長寿ドック



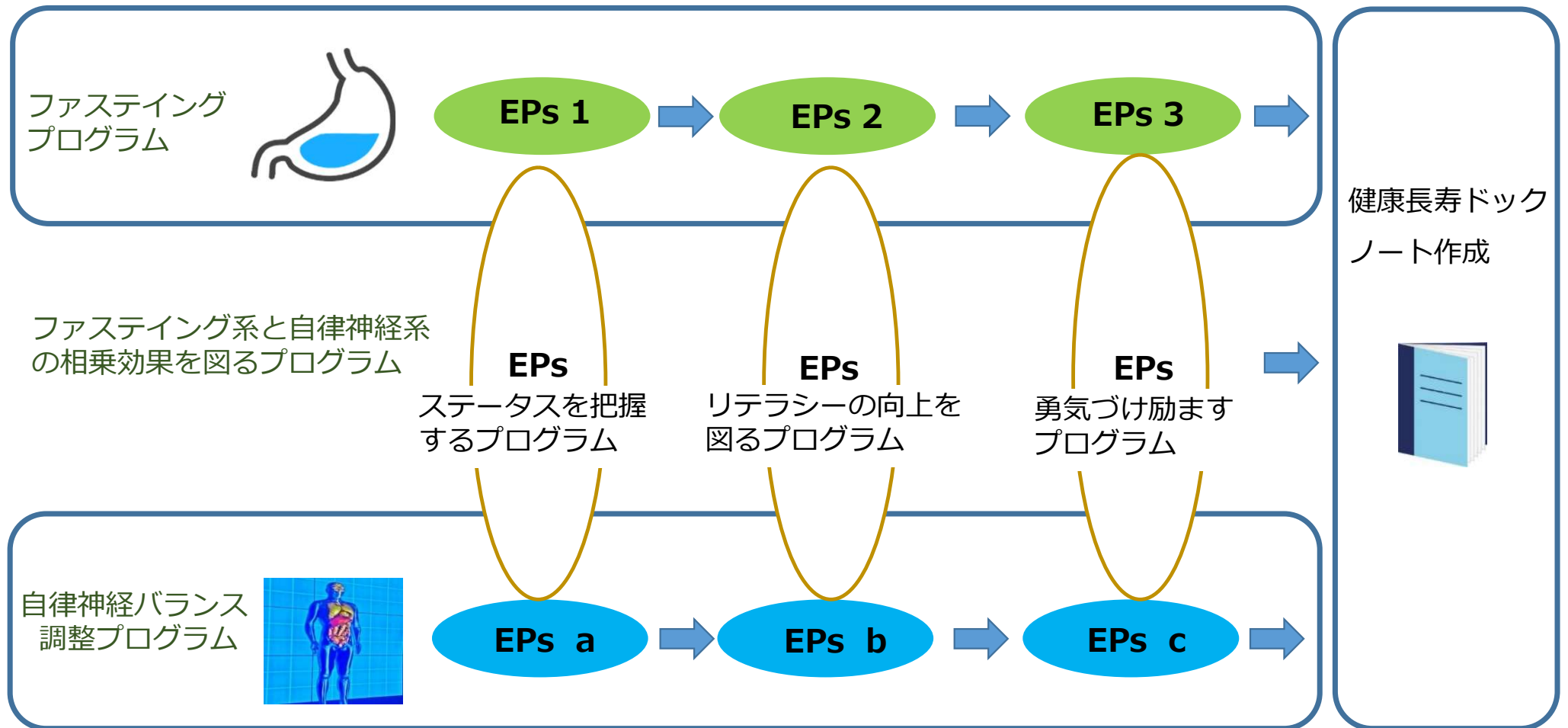
（イメージ）

EPs標準化のひな型 (増富温泉の研究者、EPs事業者、JTRECの共同研究)

健康長寿ドック (3泊4日コース)

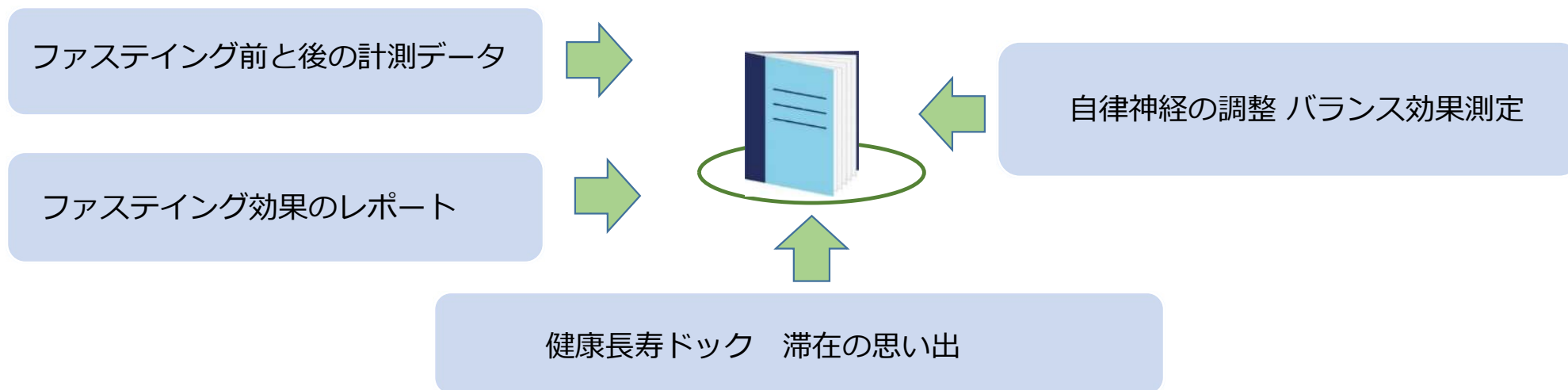


健康長寿ドックを構成する体験プログラム



健康長寿ドック参加者毎に記録ノートを作成

自己評価ツールとして役立つ「長寿健康ドックノート」の提供



(イメージ)



(イメージ)



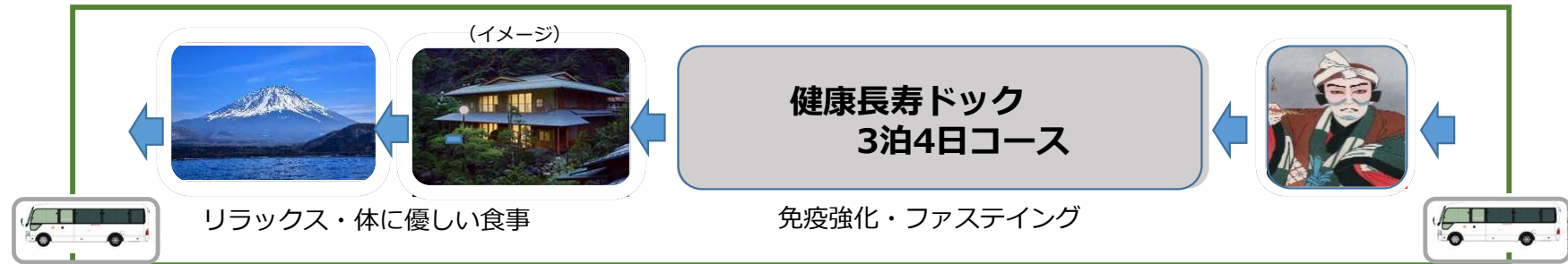
(イメージ)



(イメージ)

ウェルネスツーリズムの始まり

本格的な健康をめざすツアーに期待

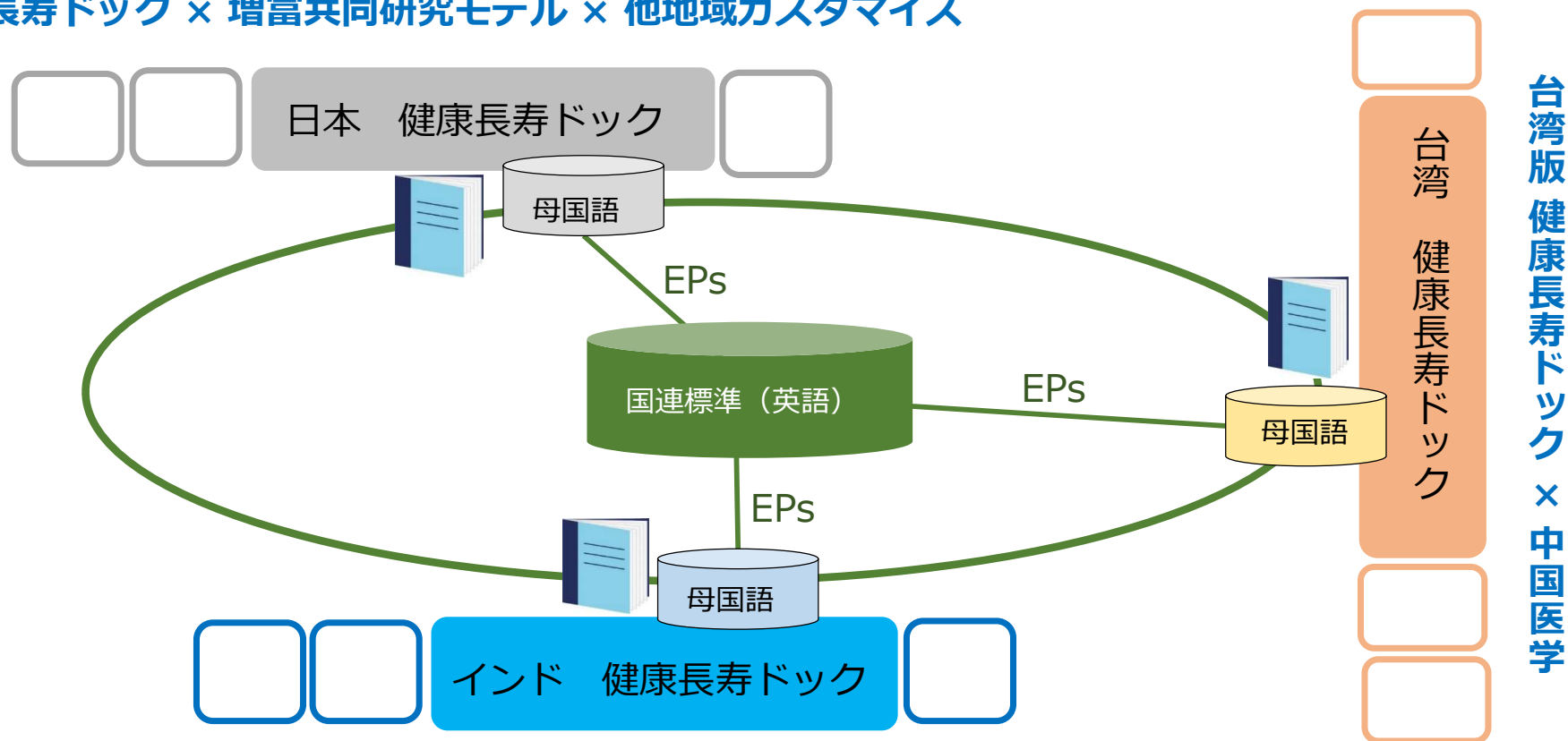


参加者に健康長寿ドックのデータ提供



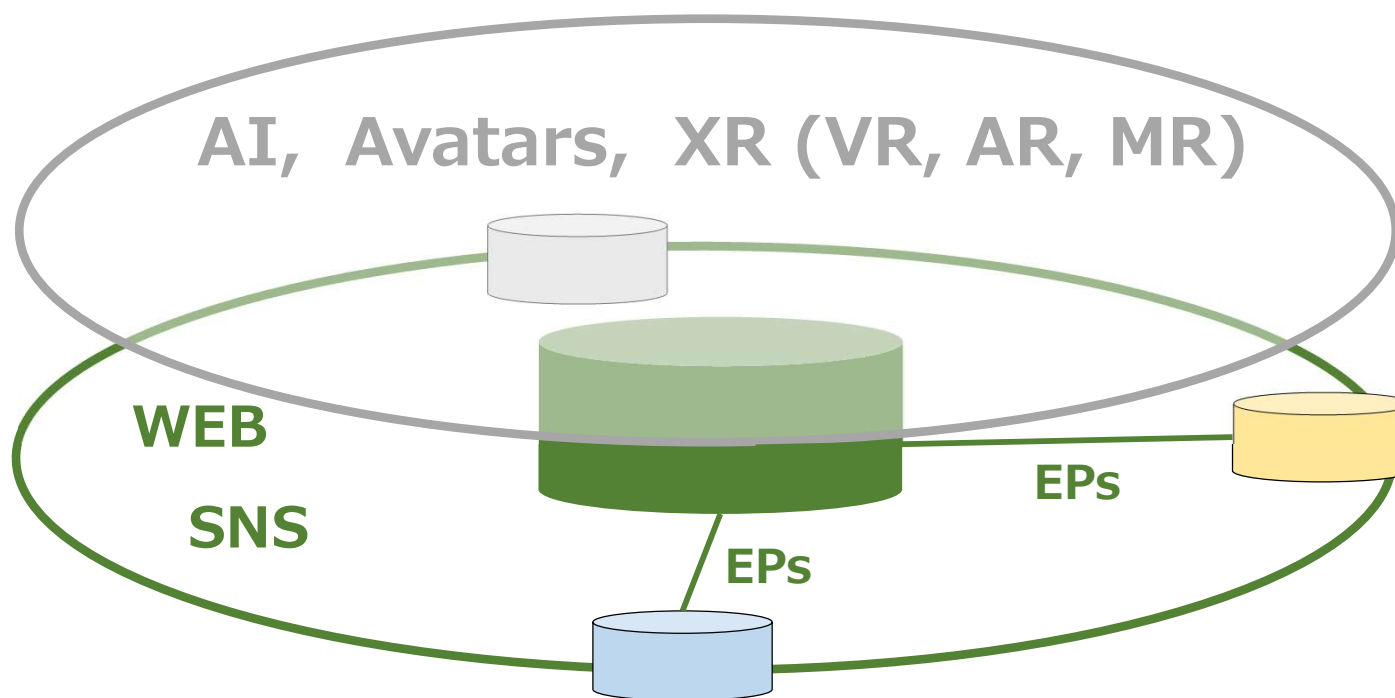
“グローバル” 健康長寿ドックで実用化を広げたい

健康長寿ドック × 増富共同研究モデル × 他地域カスタマイズ



インド版 健康長寿ドック × アーユルベーダ

“グローバル” 健康長寿ドックで実用化を広げたい



年内のEPs標準化と「健康長寿ブック」を
ひな型としたウエルネスEPsの実用化に
関係者一同、夢中です